

第1号議案 平成20年度事業報告について

平成20年度事業報告

自 平成20年 1月 1日

至 平成20年12月31日

平成20年度は、当連合会がNPO法人として発足して以来5年目を迎えたことから、これまでの活動を集大成し更なる発展を期す節目の年となった。

しかし、この年の社会経済情勢は、前年の建築基準法改正の影響を受けて、廃材の絶対量が減少する中で、全国各地に新たな大型バイオマス発電施設が稼働したため、木質チップは、需要に追いつけず大幅な供給不足となった。

特に、燃料チップの急速な需要拡大は、取引価格の上昇にもつながり各地に新規の小規模チップ業者を多数出現させ、結果として既存事業者の廃材確保難と処理費低下による経営不振を招くようになった。

また、上半期の天井知らずの原油高が輸送費の高騰を招き資材の入手や販売先を狭めると共に、下半期のサブプライム問題に端を発した金融危機が社会全体の事業活動に大きな不安をもたらすなど、1年を通じて混迷の年となった。

唯一の好材料は、地球温暖化防止対策が最重要課題とされた7月のG8北海道洞爺湖サミットにおいて、CO2排出削減の徹底にバイオマス活用の重要性が取り上げられ、我々業界の役割が大いに認められ多くの国民の関心が寄せられたことであった。

このような状況の中で、当連合会としては、業界の安定と発展に資するため、各種の調査や講演会等による情報提供を始め理事会（4回）及び委員会（6回）で必要な対策を検討すると共に、関係省庁幹部との需給問題検討会やユーザー懇談会の開催及び関係4省大臣への要望などを行い課題に取り組んできた。

さらに、本年度は、NPO法人発足5年目の節目の年を記念して11月13日に明治記念館で「全国大会」を開催し、国及び関係団体等から多数のご来賓及び全国各地域から各協会会員の出席を得た。

この全国大会では、第1部で連合会の活動実態を披露すると共に優良企業及び優良社員を表彰し、第2部で基調講演及びシンポジウム（パネルディスカッション）を各界の第一人者のご協力得て開催した。更に、第3部の意見交換会では、町村前官房長官にご来臨いただくと共に、各省庁代表者などからも励ましのご挨拶を頂戴するなど200余名の出席者との交流が実現した。

これら全国大会の詳細については、別紙に記載のとおりであるが、彦坂理事長が平成20年度の3R活動推進功労者として環境大臣賞を受賞された披露セレモニーもこの大会を盛り上げた。また、近畿木材資源リサイクル協会の連合会復帰と九州環境ネットワークの運営協力も全国大会の成功につながった。

その他、未利用木材資源確保対策については、優良事例の調査に着手したがいまだ不十分であるため今後とも委員会提案を基本に重点取り組みをしたい。

平成20年度「連合会の主な活動状況」

1. 情報の収集・伝達に関する事業
① ホームページ等通信手段活用事業 ホームページを活用して、本年度実施した各種の調査結果及び研修・イベント内容並びに国への要望事項等を照会するとともに入手した有益な情報を適時に掲載した。 また、NPO 法人発足5周年を記念した「全国大会」開催内容についても掲載した。
② 機関誌等発行配布事業 会報及び連合会パンフレットを作成し会員及び関係者に配布した。
③ 関係機関の情報収集事業 国・自治体及び関係機関の情報を収集し適時に協会事務局に伝達した。
2. 調査・研究・開発に関する事業
① 木材資源リサイクル調査及び広報活動推進委員会の開催 (6回) 連合会活動に必要な調査及び広報に関する手法等を検討し各種事業を推進した。 特に、本年度は、各種実態調査やユーザー懇談会の進め方のほか、洞爺湖サミットの開催にあわせて木質チップのCO ₂ 排出削減効果の簡易算定手法や全国大会の構想等について検討した。
② 木材資源の需給実態調査事業 木材資源のリサイクル推進に必要な資材確保から製品供給に至る木質チップ等の生産・流通・販買等の実態を把握するため、マテリアルユーザー・サーマルユーザー・流通業・住宅産業及び生産会員を対象に一斉調査を実施し、各業界の需給量・取引価格などの情報を得た。 (8月)
③ 未利用木材資源調査事業 林地残材等の確保対策に資するため、未利用木材資源の取り組み方策について調査等委員会で検討するとともに山梨県及び群馬県の事例を調査した。 (7月) また、各種講演会・研修会等に積極的に参加し国内外の知見を収集した。
④ 木質チップ等品質規格設定調査事業 燃料用チップの需要が増大するにつれて、小規模業者の参入が増え各方面で品質低下が危惧されたが、多くのユーザーが供給不足に対応するためこれまでの品質規格を超えた取引実態にあり連合会独自の規格設定にまでは至らなかった。
3. 研修・イベント開催に関する事業
① 第5回時局講演会の開催 定期総会に合わせて、「リサイクル産業の今後の展望について」と題し経済産業省リサイクル推進課長安藤晴彦氏に、また、「リサイクル産業における林地残材活用の可能性について」と題し(独)森林総合研究所林業工学研究領域チーム長陣川雅樹氏にご講演を頂いた。 (3月)
② 第3回ユーザー懇談会の開催 過去2回の懇談会と同様にマテリアル部会とサーマル部会に区分し、国の担当官出席のもと各ユーザー代表と連合会役員とが業界の実情等について意見交換した。

特に、発電燃料の需要拡大の影響を受けて、両部会とも木質資源の確保対策が中心の共通課題であったため、今後は合同の懇談会を開催することにした。(10月)

③全国大会の開催(第2回)

NPO 法人発足5周年を記念して、関係者の一層の理解と協力を得るため11月13日に明治記念館において別添のとおり全国大会を開催した。

当日は、国及び関係団体等から多数のご来賓及び全国各地域から各協会会員の出席を得た。また、本大会の実施にあたり NEDO から初めて補助金を得た。

4. 協調・合意・連携に関する事業

① 会員協会との協調・合意・連携の強化

連合会と各協会との連携強化のため、必要に応じて各協会の総会・理事会・例会等に参加し事業推進への合意形成を図るとともに毎月の連合会通信等を通じて会員協会の活動を周知した。

② 各種委員会及び協議会等への積極的参加

国及び自治体並びに都道府県産業廃棄物協会などのほか、会員になっている建設副産物リサイクル広報推進会議(事務局:(財)先端建設技術センター)等の各種委員会に積極的に参画し、木材資源のリサイクル推進に係る必要な検討を行った。

③ 連合会運営事業

各種の連合会活動を的確に運営するため、定期的に協会長会議・理事会・総会等を開催し計画的に各種事業を推進した。(2・3・6・9・10・11・12月)

5. 要望・陳情・懇談に関する事業

① 木質チップ等需給問題検討会の開催

現状及び将来の木材資源のリサイクル推進について、関係省庁の担当課長等(3省13名)と連合会役員等(19名)とが主に需給問題をテーマに意見交換を行い、必要な施策の実施を国に要請した。(2月)

② 国及び関係業界等に対する要望・陳情

木材資源のリサイクル推進に係る制度改善及び課題解消に必要な13項目について、関係する4省大臣(環境省・国土交通省・経済産業省・農林水産省)に要望するとともに、関係業界には懇談会等を通じて協力を要請した。(12月)

6. 啓蒙・啓発に関する事業

① 新聞・テレビ等広報媒体の活用

連合会が実施した調査結果及びイベント情報等を新聞・テレビ等の広報媒体を通じて積極的に啓発した。

全国大会開催結果

期日：平成20年11月13日

場所：明治記念館

- I. 記念式典の部 15:00～15:30 (1階：曙・松の間)
1. 全国大会開会宣言 NPO 法人全国木材資源リサイクル協会連合会副理事長 片岡重治
 2. あいさつ NPO 法人全国木材資源リサイクル協会連合会理事長 彦坂武功
 3. 木材資源リサイクルの実態報告 NPO 法人全国木材資源リサイクル協会連合会副理事長 鈴木 隆
 4. 優良企業及び優良社員表彰
- II. 基調講演およびシンポジウムの部 15:40～17:50 (1階：曙・松の間)
1. 基調講演 15:45～16:15
演題：「森林の新しい可能性」
講師：農林水産省林野庁林政部長 針原 寿朗 様
 2. シンポジウム (パネルディスカッション) 16:20～17:50
課題：「循環型社会における木質バイオマスの需給展望について」
コーディネーター：静岡大学農学部教授 鈴木 滋彦 様
パネリスト：
環境省廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室長 上田 康治 様
農林水産省林野庁林政部木材利用課長 岩本 隼人 様
日本繊維板工業会常務理事 涌田 良一 様
日本製紙株式会社原材料本部燃料部長 井澤 佳昭 様
NPO 法人全国木材資源リサイクル協会連合会副理事長 山口 昭彦
- III. 意見交換会の部 18:00～19:30 (2階：蓬莱の間)
1. ご来賓紹介
 2. 環境大臣表彰紹介
 3. 理事長挨拶および謝辞
 4. ご来賓挨拶
前内閣官房長官 衆議院議員 町村 信孝 様
環境省大臣官房長 南川 秀樹 様
農林水産省林野庁森林整備部長 沼田 正俊 様
経済産業省エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部長 欠席
国土交通省大臣官房技術参事官 下保 修 様
社団法人全国産業廃棄物連合会副会長 石井 邦夫 様
 5. 乾杯
建設副産物リサイクル広報推進会議会長 三谷 浩 様
 6. 中締め
スリー
3 R 活動推進フォーラム専任理事 八木 美雄 様
 7. 全国大会閉会宣言
NPO 法人全国木材資源リサイクル協会連合会監事 田中 一正

全国大会出席者内訳

来賓出席者

区分	1部	2部	3部	企業数	人数
関係省庁	5	9	15	5	17
都道府県	2	2	1	2	2
市町村	3	3	2	3	3
学識経験者	2	2	2	2	2
関係団体	18	23	12	12	23
関係企業	40	42	34	33	40
一般参加	5	5	5	2	5
機械器具関係会社	3	3	3	1	3
報道関係	4	5	5	4	5
賛助会員	16	21	21	9	21
計	98	115	100	73	121

協会参加人数

北日本木材資源リサイクル協会	16	16	13
関東木材資源リサイクル協会	53	56	55
東海木材資源リサイクル協会	10	10	10
近畿木材資源リサイクル協会	2	2	2
中四国木材資源リサイクル協会	11	11	11
全国木材資源リサイクル協会連合会	3	3	3
計	95	98	94

合計	193	213	194
----	-----	-----	-----